に対し，「人間的にあらねばならない」と反発するのはたやすいことであろう．ただ，問題は，どの程度，自分のなかで「知行合一」出来ているか，と言う点である．このような記述に刺激されて自分の”腰の決まり方”を再点検するのもこの本の利点の一つであろう．

さらに，興味深いことがある．評者の感覚と著者の感覚が非常に近いことである．これは，著者の経歴を見て納得した．いわゆる「全共闘世代」の気分というものであろう．面識は無くとも，「時代の気分」と言うのは，その時期を過ごした若者に共有されて行くのである，ということなのであろう．もっとも，このような「若者の気分」は，古今東西繰り返されてきたはずである．現在，社会の中堅に居る「昔の若者が何をしてくれるのか？」というところが，興味の持てるところである．

最後に，科学論を論じた第1章に，2，3間違いがあるので指摘しておこう．例えば，大気大循環モデル(GCM) を一般回帰モデルと訳してあったり，また，ハンセンの経度8度のモデルを「現在のGCMの中では高解像度のモデルに入るのだが，それでも中緯度の水平距離は約300キロメートルになる」などの記述である．また，これまでに「本格的なGCMは5系統のものが開発されているが，イギリス気象庁のモデルを除けば，すべてアメリカの研究者の手になるものである」という記述も不正確である．正しくは，「3つはアメリカにいた日本人研究者の手になるもの」と書くべきであろう．専門外の著者が気象学の論文を読んで書いているので仕方が無いとも言えるが，出版社は一度，専門家に事実を聞いてほしかった．

とはいえ，現代的な課題に対する興味を開いてくれる良書である．一読をお勧めする．

（東京大学気候システム研究センター　住　明正）

第6回 IGBP/GAIM 研究会のお知らせ

日　時：1994年10月21日（金）9：00～13：00
会　場：九州大学理学部 生物学教室会議室
（箱崎キャンパス理学部3号館5階）
招待講演：

1．久保拓弥（九州大・理・数理生物）
「森林動態のモデリング：擾乱スキームと地球変化」

2．野田　彰（気象研究所・気候研究部）
「気象研究所大気海洋結合モデルによる二酸化炭素漸増実験」

上記の日程で第6回のGAIM研究会を開きます．今回も上記招待講演と一般講演を行う予定です．

尚，参加費などは一切不要です．

問い合わせ先：〒305 つくば市天王台1-1-1
筑波大学生物科学系
及川　武久
TEL・FAX 0298-53-6661